

鳥が飛ぶ  
鳥が飛ぶとき  
空もとぶ  
空が飛ぶとき  
鳥も飛ぶ  
鳥と空とは  
一体である



鳥の飛ぶさま  
鳥のようである  
座禅の境地  
また座禅である



「正法眼蔵写真集  
道元禅師  
一禅の心象風景」  
という本に  
載っていた



これってまさに  
「私とはだれか」  
の本質を付いている



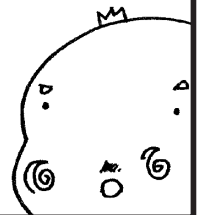
人と世界は  
一体である  
人とは別に世界が  
あるわけではない



人が変化するとき  
同時に世界も変化する  
一体として変化する  
だから  
「鳥が飛ぶとき  
空も飛ぶ  
空が飛ぶとき  
鳥も飛ぶ」なんだね



一体性の中で  
形のない  
座禅の境地や  
飛ぶという  
はたらきに対して  
座禅や鳥という名が  
与えられた



鳥を見て  
鳥と分かったん  
じゃない  
飛ぶさまを見て  
鳥って分かった



座禅を  
している人の  
境地をみて  
それが座禅であるか  
どうかわかる

鳥が飛ぶ様は  
この鳥の本質である

座禅の境地は  
座禅という行為の  
本質である

頭で  
解釈するのを  
やめよう

まとめると…  
ここでの理解は  
人と空（世界）は  
一体であるって  
いうこと

今は解釈せず  
ただ読むこと！  
いづれ君の  
本質が知るまでは

空の中に  
飛ぶさまが見える時  
それを鳥だと  
私たちは思ってしまう  
でもそこにあるのは  
飛ぶさまだ